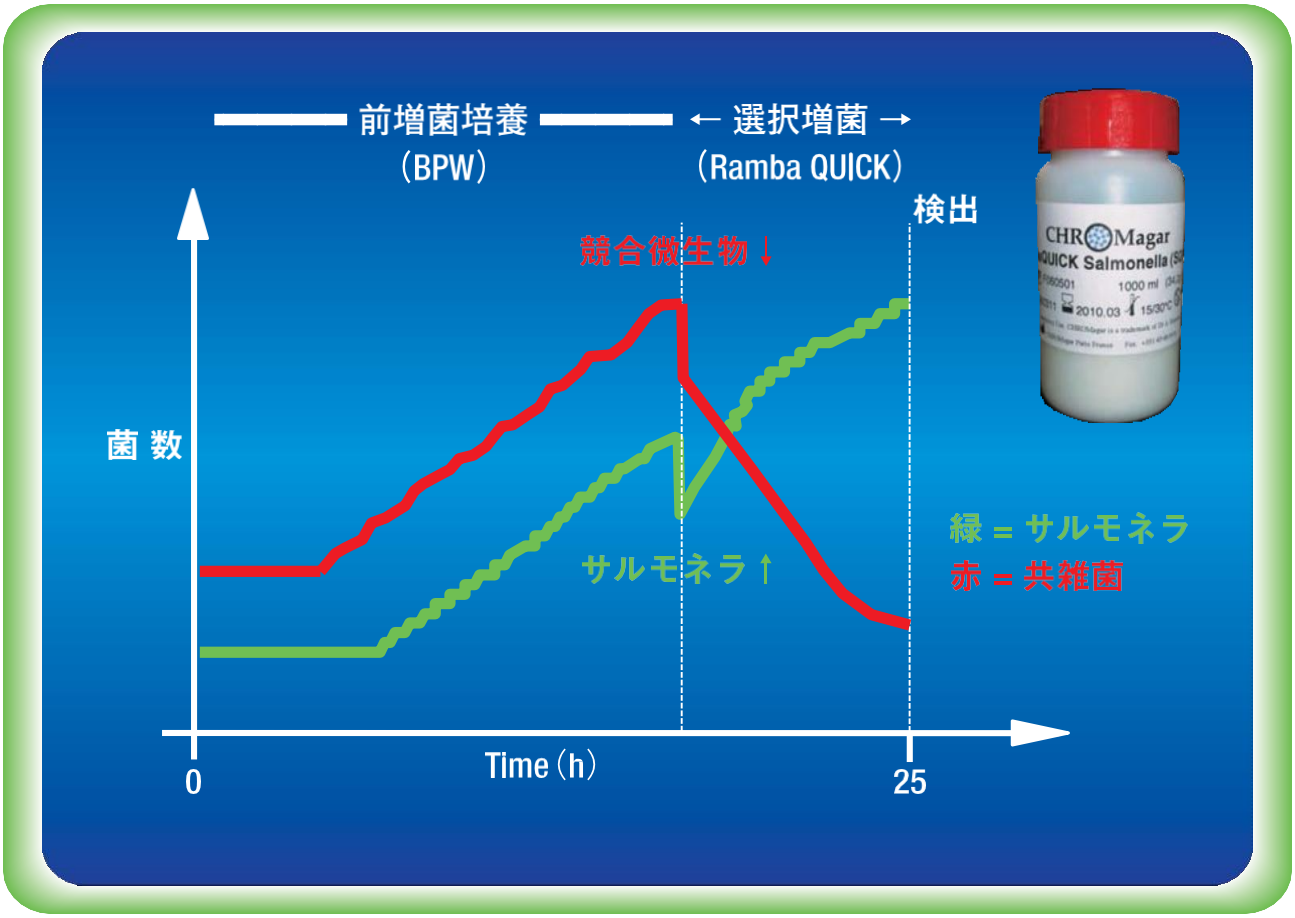
ISOの二種類の選択増菌法を1つにした新しい迅速増菌培地

ランバックイック サルモネラ
RambaQUICK Salmonella

Kanto Reagents



特長

◆ラパポートバシリアディス(RV)培地とテトラチオン酸(TT)培地の選択性を同時に備えることにより、迅速な選択増菌培養が可能になりました。

◆わずか7時間で選択増菌培養が可能です。

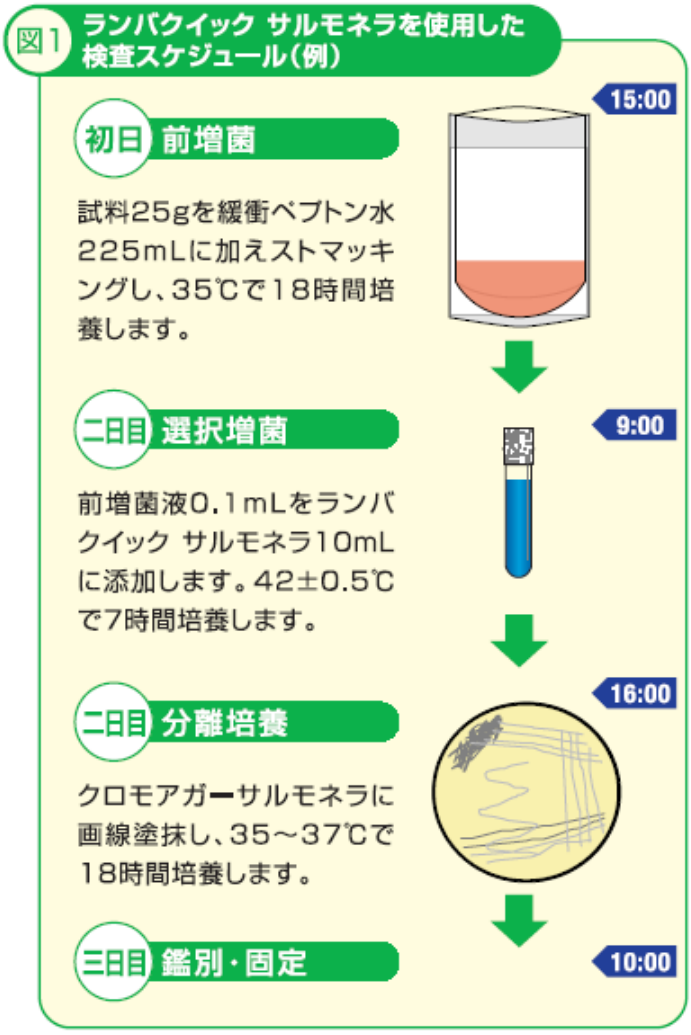
◆クロモアガーサルモネラならびにラテックス凝集キットと組み合わせることにより、約2日間(3日目)で結果を得ることができます。

ランバクイック　サルモネラ

はじめに

サルモネラは黄色ブドウ球菌やカンピロバクターと並ぶ代表的な食中毒です。古くから多くの選択増菌培地が考案されてきましたが、現在ではラパポートバシリアディス（RV）培地とテトラチオン酸（TT）培地を併用することが薦められています。しかしながら、2つの培地を使うことは非常に煩雑で手間がかかります。本品は酵素基質培地の開発者であるDr.Rambachがその細菌代謝の研究から考案した新しい増菌培地で、RV培地およびTT培地の選択性の長所を生かして1つとした選択増菌培地です。チフス菌や乳糖分解性のサルモネラも迅速増菌できる特長を持ち、クロモアガーサルモネラと組み合わせることでサルモネラより迅速・簡便に検出することが可能です。

図1 ランバクイック サルモネラを使用した検査スケジュール（例）



調製法

①本品34.2 gを精製水1 Lに懸濁します。撹拌時間は30分以上行ってください。
②100 ℃まで加熱し煮沸溶解します。
③15 mLのネジ蓋付滅菌試験管に10 mLずつ無菌的に分注します。
④すぐに使わない場合は汚染が起こらないようにネジ蓋などで密封して保存してください。2～8 ℃で保存すれば6ヶ月間使用できます。

※ オートクレーブを使用する場合、圧力をかけないでください。
※ 暗緑色の沈殿が現れることがありますが、性能には影響ありません。

使用方法

①試料25 gを225 mLの緩衝ペプトン水に入れてストマッキングした後、35 ℃で18～24 時間培養します。
②培養液を0.1 mL採取し、あらかじめ分注した10 mLの本品に接種します。
③42±0.5 ℃で7時間±1時間培養します。
④培養液をクロモアガーサルモネラに塗抹し、35～37 ℃で18 時間培養します。
⑤サルモネラを疑う集落（藤色の集落）を釣菌して生化学性状やラテックス凝集により同定します。

検査の流れ

本品を利用した培養法（例）については、図1を参照ください。
本品は7時間で選択増菌されることから、従来のRVやTTを併用する方法と比べ迅速化が図れます。
迅速選択増菌により3日目には選択が可能です。
選択増菌培養後にイムノクロマト法などを利用すれば2日目で推定することも可能です。

製品番号	製品名	包装
49958-42	ランバクイック サルモネラ	1 L用

＊ 本品はCHROMagar社（仏）の製品です。
＊ CHROMagarはDr.Rambachの登録商標です。

関東化学株式会社
試薬事業本部　試薬部
〒103-0022　東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号
TEL：03-6214-1090
HP：https://www.kanto.co.jp

M-019（202506）